

## 札幌市立澄川南小学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

### 1. 研究のねらい

本校では、これまで環境教育の一環として生活科・総合的な学習の時間において、札幌らしい特色ある学校教育の一つである「雪」をテーマにした活動を実施している。具体的には、4年生を対象とした「かんじきづくり体験」、2年生・4年生を対象とした「スノーシュー体験」等を実施してきた。

そこで、今年度より NPO 法人北海道森林ボランティア協会の協力のもと、専門的な知識や経験のある地域・外部人材等を活用し、同協会が管理している「澄川環境林」を活用し、自然環境をテーマとした学習の様々な可能性についての実践研究を行い、年間を通して自然環境に関わる学習活動に全学年が取り組むことで、本校における環境教育カリキュラムの一層の充実を図ることを研究のねらいとした。

### 2. 取組内容

#### (1) 3年生 総合的な学習の時間「森となかよし」

今年度は、3年生を主な対象として、四季を通して森の自然環境や生態系に触れる学習活動を総合的な学習の時間の年間計画に位置付けて実施した。

##### ①春の森林探検（6月）

自分たちが通う校区の約半分の面積を森林が占めているという事実を知った子どもたちは、「どんなところかな。」「調べてみたいな。」という願いをもち、実際に春の森を散策した。初めて訪れた森では、森林ボランティア協会の方々の案内で、芽吹いたばかりの若芽や若葉を見たり、触ったり、臭いを嗅いだりするなど、諸感覚を働かせてたくさんの発見をし、「もっと調べてみたいな。」「また来たいな。」「この葉っぱは、この後どうなるのかな。」と、学習への意欲を高めることができた。



##### ②夏の森林探検（7月）

前回の散策から1か月。子どもたちは、グループごとに春と夏の違いを見付けようと思い思いに草木を観察した。春には見られなかった花や虫などをたくさん発見し、写真に撮って後日ワークシートに記録する活動を行った。セミの抜け殻やシャクトリムシを実際に手に取り、感触を楽しむ子どもたちの表情は真剣そのものであった。「樹木園」というエリアでは、植樹されている標本木を観察し、秋の「マイツリー選定」に向けて、自分のお気に入りの木を探す活動を行った。



##### ③「すみなみマイツリー活動」（秋の森林探検：9月～11月）

この活動は、子どもたちが在学中に継続的に森と関わり、木について学ぶ機会をもつことで、自然に対する愛着や理解を育むことをねらい、中核となる学習活動として

位置付けたものである。

まず、4名ずつ12班に分かれてマイツリーを選定し、次に、選んだ木の「葉」を持ち帰り、図鑑などを参考にして樹名や特徴を調べ、「樹名板」作りをした。完成したのは、自分たちの木の側に立てた支柱に取り付け、これから卒業するまで観察を続けていくことになる。

この学習は、子どもたちにとって大変印象深い活動となり、「もっと自分の木について調べてみたいな。」「来年の春はどうなっているかな。」という次への期待や意欲をもたせることができた。



#### ④「炭焼き体験」「スノーシュー体験」(冬の森林探検：12月～2月)

炭焼き体験では、自分で集めた木の実などを缶に入れて、焚き火の中で焼き、化粧炭を作った。出来上がった炭を見て「色が変わったね。」「きれいに残っているよ。」と驚きの声をあげていた。

スノーシュー体験では、降り積もった森の雪を踏みしめながら、マイツリーの様子を観察したり、森林ボランティア協会の方々の案内で、雪面に残った「動物の足跡探し」をしたりした。どちらも、冬ならではの学習活動として他学年の学習にも位置付けていきたいと考えている。



### 3. 成果と課題

#### (1) 成果

子どもの自己評価を実施したところ、「森の様子の変化を見付けられましたか。」「マイツリー活動は楽しかったですか。」の質問に対して肯定的に答えた子どもの割合は91%であり、自然に対する関心・意欲・態度の高まりが顕著に見られた。また、本市の「学習に関するアンケート」の指標である「札幌には好きな場所やものがある。」に対して肯定的に答えた子どもの割合は94%であり、身近な自然環境への愛着を強めていることが分かった。森の豊かな自然に触れながら直接的な体験学習に取り組むことは、子どもの感性を育む一助となったと考える。

#### (2) 課題

子どもたちからは「より詳しく知りたい」と、更に一步踏み込んで学習をしてみたいという意見が多かった。今後は今年度の成果を生かし、子どもの「もっと」を生かした活動プログラムの開発を行うなど、教育課程の一層の充実を図りたい。